

地域づくり活動 NPO 事業助成（先導的・先駆的）事業 実績報告

団体名	特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター	代表者名	理事長 長谷川 計二
事業名	地域連携型若者支援プログラム開発事業		

<事業実施実績>

年 月 日	活 動 内 容
2020年 6月 7日	【講座】 コロナ緊急開催・子ども若者が声を上げやすい社会になるために、私たちに何ができるかを考えよう（オンライン） 講師：北野真由美さん（NPO法人えんばわめんと堺 理事長）
10月～	「子ども・若者の声を聴くためのハンドブック ～新型コロナウイルス そのとき「現場」はどう動いたか」の制作
10月27日 ～2021年 3月 1日	インタビュー ・竹田明子さん（（公財）京都市ユースサービス協会） ・西 ユミ子さん（子ども食堂 晴れるや） ・三科元明さん（NPO法人ここ／フリースクールここ） ・松下祥貴さん（NPO法人不登校児支援・病児支援事業ろ～たす／フリースクール「ろ～たす」） ・阪上由香さん（NPO法人FAIR ROAD） ・（公財）さっぽろ青少年女性活動協会
12月 4日	第1回ユースワーク研究会開催
3月	冊子「子ども・若者の声を聴くためのハンドブック ～新型コロナウイルス そのとき「現場」はどう動いたか」 の完成・納品

<効果と成果>

今回、「子ども・若者の声を聴くためのハンドブック ～新型コロナウイルス そのとき「現場」はどう動いたか」と題した冊子を作成しました。私たちが特に大切にしたいキーワードは「子ども・若者の声を聴く」ことです。SOS がなかったのは「困っている人たちがいなかったから」ではなく、「何も声を出せずに苦しんでいる状態だったから」ではないでしょうか。今回、子ども・若者と関わる公共施設や子ども食堂、フリースクールなど、さまざまな団体がコロナ禍のときに何を考え、何に悩み実行していったのか、を「子ども・若者の声を聴く」視点からインタビューしました。

「非日常」が起きた時への対応は、「日常からの備え」で決まるとも言われます。新型コロナウイルスをきっかけにさまざまな「あたりまえ」が変わってしまいましたが、同時に、これまでの「備え」が役に立ったこともあるかもしれません。今回のコロナ禍における記録とともに、私たちの「日常からの備え」をどうアップデートするか、を考える材料になればと思います。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	400,000
参加費	4,500
自己資金	323,329
合 計	727,829

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち助成対象 金額 (円)
直接 経 費	人件費、謝金	176,211	130,000
	業務委託費	429,000	165,000
	印刷製本費	101,149	100,000
	その他 (通信費、消耗品等)	21,469	5,000
	小 計	727,829	400,000
間接経費 (一般管理費)		0	0
合 計		727,829	400,000